

指定校番号	31006	学級活動	○	児童会活動	学校行事	別紙様式2
-------	-------	------	---	-------	------	-------

令和元年度生徒指導集中対策及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	府中町立府中南小学校	校長	中坊 京子	生徒指導主事	岡本 美紀
-----	------------	----	-------	--------	-------

取組事例名 『主体性を育む児童会活動～小中合同挨拶運動を通して』

取組における育てたい資質・能力

人間関係形成	社会参画	自己実現
「コミュニケーション能力」 2	「主体性」 1	「自己理解」 3

取組のねらい

本中学校区では、小学校6年間中学3年間の9年間で高い志をもった児童生徒の育成をめざしている。ゴールイメージとして、自分の将来への希望や自分の理想とする姿(志)について、自分の言葉で語り、その実現に向けて努力する姿を描いている。本中学校区に共通する課題は、言葉で表現する力が弱いことと主体性に欠けることである。そのために、小学校執行部・中学校生徒会が主体となり、小中合同挨拶運動の計画を立て、児童・生徒発信の挨拶運動を展開することで、進んで挨拶をしようとする態度を育てると共に児童・生徒の主体性を育てていきたい。

取組の具体的内容

- 1 新旧執行部で思いをつなぐ。(H31. 1～3月)
 - ・昨年度の執行部から出ていた意見「挨拶が十分にできていないのではないか。」
 - 「小中合同挨拶運動を行っていくことが必要だ。」など
 - ・上記の意見を受け止め、新執行部として取り組んでいく。
- 2 第1回児童生徒会議開催 (R 1. 7月ーくすのきプラザ)

[出席者] 本校執行部, 中央小執行部, 緑ヶ丘中生徒会

[内容]

 - ・昨年度の児童・生徒の思いを受け継ぎ、気持ちの良い挨拶を地域に広げるために「小中合同挨拶運動」を行うことを決定。
 - ・運動の詳細(目的・実施日・時間・内容)について話し合う。
- 3 執行部より本校全児童に小中合同挨拶運動の目的と計画を知らせる。(R 1. 9月)
 - ・本校独自の執行部宣言「こんな南小にしたい」に挨拶の項目を入れる。
- 4 「小中合同挨拶運動」実施

[目的]

 - ・中学校区全体で、気持ちの良い挨拶を行う。
 - ・本校, 中央小の児童と緑中の生徒が協力して挨拶運動を行う。

[実施日]

①9月17日②10月17日③11月18日(7:40～7:55)

[場所](校区同時開催)

 - ・本校北門, プール門(本校執行部, 緑中5名)
 - ・緑中(緑中5名), 中央小(小学校執行部, 緑中5名)
- 5 本校執行部で定期的の実施
 - ・小中合同挨拶運動後も、定期的に挨拶運動を実施することで、気持ちの良い挨拶を地域に広げる。
- 6 今年度を振り返り「小中合同挨拶運動」の意見を集約し、来年度へ引き継ぐ。

取組の創意工夫
『つなぐ広げる高める』

- 『思いをつなぐ①』
- ・平成30年度の意見を令和元年度へ
 - ・小学校執行部と中学校生徒会
 - ・小学校, 中学校と地域をつなぎたいという思い。
- 『話し合いで中学校区をつなぐ②』
- ・話し合いを通して、挨拶運動に対する思いや実施方法のイメージの違いについて互いに歩み寄り, より良い「小中合同挨拶運動」の内容を決定。
 - ・児童生徒の主体の話し合いになるよう教員は、極力口を出さない。
- 『本校児童と中学校区をつなぐ③』
- ・目的を知らせることで、運動を楽しみにする気持ちを持たせた。
- 『運動でつなぐ④』
- ・事前に中学校区で共通の挨拶レベル1～5を決めておく。
 - ・レベル5の児童生徒には「挨拶キラキラカード」を渡す。
 - ・地域の「あいさつ運動」や本校職員の「登校指導」と実施日をそろえ, 全体で運動を盛り上げる。
- 『挨拶運動を広げる』
- ・カードをもらった児童生徒を後日表彰する。(挨拶名人としてみんなをリードしていく。)
 - ・地域の「あいさつ運動」や職員の「登校指導」と同日に行うことで, 地域・職員・生徒・児童に気持ちの良い挨拶の輪を広げる。
- 『挨拶運動や地域とのつながりの質を高める』
- ・執行部を中心に広げる。
 - ・見守り隊から挨拶カードを渡す。
 - ・次年度へ引き継ぐことで, 質を高めていく。

取組の成果と課題

- 運動の中心を担った執行部児童からは、「計画から実施・振り返りと忙しかったけれど、楽しかった。できるなら中学校でも生徒会に入り運動を広げていきたい。」等の意見が出るなど全員が運動にやりがいを感じていた。
- 「小中合同挨拶運動」の取組を通じ、執行部児童の主体性・積極性が高まり、11月「パブリックデー」における地域懇談会(出席者:地域の方, 保護者, 6年児童, 教員)のパネラーとして、もっと地域に挨拶を広げていきたいという思いを伝えた。地域の方からは、「大人こそ実は挨拶に対して消極的な部分がある。」という意見や、児童からは、「高学年になると恥ずかしさが出てくる。」という意見も出た。本音での話し合いを通じ、地域全体で挨拶をしていこうという空気を生み出すことができた。
- 保護者対象学校評価アンケート挨拶指導の項目を比較すると、7月の93.7%から12月の94.3%へと肯定的評価が増加していた。
- 本校児童生活向上アンケート「学校・家庭・地域で気持ちのよい挨拶や返事をしています。」の肯定的回答は、7月95.1%から12月94.8%と0.3%下がったものの高水準を維持できた。
- △挨拶運動は一定の効果をあげたが、校内や地域で「いつでも」「どこでも」「誰にでも」という挨拶できる児童は多いとはいえないので、今回のような児童主体の取組を継続していく。
- △保護者からの肯定的評価は94.8%だったが、内訳「そう思う」が全体の44.9%と半数をきっていたので、具体的にどんな挨拶をめざしているのかを小学校として地域や保護者の方に理解していただけるように伝えていく必要がある。